

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34314

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13059

研究課題名（和文）幼児の主體的な学びの質を高める幼児教育モデルの構築

研究課題名（英文）Building an early childhood education model that enhances the quality of young children's independent learning

研究代表者

中西 さやか（Nakanishi, Sayaka）

佛教大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：40712906

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は、次の二点に集約することができる。一点目は、「子どもにとっての学びとは何か」という視点から、乳幼児期の学びのプロセスを概念化したことである。すなわち、子どもがあらゆる感覚や思考を使って世界との関係を変化させていくプロセスが乳幼児期の学びにおいてとりわけ重要であることを示した。二点目は、そのような学びのプロセスを読み解くためには、保育者も自らの感覚や思考を用いて「子どもに見えているもの」を解釈することが必要であることを提起したことである。以上のことから、一人ひとりの子どもの視点に着目しながら学びのプロセスを支えていく幼児教育の在り方が示されたといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果では、乳幼児期の学びのプロセスを子どもの視点から概念化し、子どもにとっての学びを保育者が解釈・記述するための理論的枠組みや視点を提示した。それらの理論的枠組みや視点は、学齢期やその後の社会生活で求められる資質・能力から乳幼児期の学びの在り方を発想するアプローチとは異なる、一人ひとりの子どもにとって意味のある学びを読み解くことから始まる幼児教育の在り方を提起するものである。したがって、本研究の意義は、「子どもに見えているもの」を軸に乳幼児期の学びを読み解くための理論的基盤を提示した点にある。

研究成果の概要（英文）：The results of this study can be summarized in two points. The first is that I conceptualized the process of learning in early childhood from the perspective of "what learning means to the child". In other words, I showed that the process by which children use all of their senses and thoughts to change their relationship to the world is particularly important in early childhood learning. Secondly, the study suggested that in order to decipher such a learning process, it is necessary for ECEC teacher to use their own senses and thoughts to interpret "what they see in the child". In sum, the above has indicated a way of early childhood education that supports the learning process while focusing on the viewpoint of each individual child.

研究分野：保育学・教育学

キーワード：乳幼児期の学び 子どもの視点 子どもと保育者の対話 観察とドキュメンテーション ビルドウンゲ
ドイツ

1. 研究開始当初の背景

(1) 質の高い保育・幼児教育と乳幼児期の「学び」

近年、乳幼児期の保育・教育は子どもの将来を左右するものと認識され、質の高い保育・幼児教育の在り方が希求されている。質の高い保育・幼児教育において求められるのは、人生の始まりから「学ぶ」子どもであり、世界的な潮流として乳幼児期の「学び」が重視されている。

(2) 乳幼児期の「見えない学び」にどう取り組むか

このような動向は、保育・幼児教育において子どもの学びをどのようなものとして捉え、支えていくのかという課題を提起するものである。従来の研究では、インフォーマルで目に見えにくい性質を持つ乳幼児期の学びを「何を教えるのか」「子どもは何を学んでいるのか」といった視点で可視化することが試みられてきた。しかし、昨今の教育学では数字ではかることのできる知識の積み上げだけでなく、学びの質や深まりが重視されていることから、従来のアプローチのみでは捉えることが難しかった一人ひとりの内面的な学びの深まりに焦点をあて、「子どもはどのように学んでいるのか」を明らかにすることが必要となる。加えて、乳幼児期の内面的な学びの深まりを促進する保育者の役割を明らかにし、子どもと保育者双方の視点から保育・幼児教育における学びの在り方を問い直すことが求められる。

2. 研究の目的

(1) 本研究の問い

以上の背景を踏まえ、浮かび上がるのは次の二点の問いである。

- ・子どもが主体的に内面的な学びを深めるプロセスとはどのようなものか。
- ・子どもの主体的な学びにおける保育者の役割とは何か。

(2) 本研究の目的

以上の問いに迫るために、本研究では、幼児の主体的な学びの質を高める幼児教育モデルの構築を目指して、子どもが内面的な学びを深めるプロセスを捉える視点を明らかにしたうえで、学びを促進する子どもと保育者の応答的なかかわりに着目し、学びの質を高める保育者の役割を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、文献研究およびドイツでの聞き取り調査を通して、子どもが内面的な学びを深めるプロセスの概念化、学びにおける子どもと保育者の「深い対話」(= 応答的なかかわり)の概念化を行なった。具体的には、ドイツの幼児教育学者ゲルト・E・シェーファーによる乳幼児期の「ビルドゥング (Bildung)」概念 (Schäfer 2005, 2011 等) を手がかりとして、乳幼児期の子どもが学ぶプロセスがどのようなものであり、そのようなプロセスを支える保育者の役割がどのようなものであるのかについて検討した。

4. 研究成果

(1) 「子どもにとっての学び」の概念化

本研究では、シェーファーのビルドゥング概念を手がかりとして、子どもがあらゆる感覚や思考を使ってヒト・モノ・コトとかがわりながら世界との関係性を変化させていくプロセスが乳幼児期の学びであることを示した。このような学びの次元は、「子どもは何を学ぶべきか」(教育目標・内容)あるいは「遊びや生活の中で子どもは何を学んでいるのか」(学びの可視化)といった従来のアプローチにおいて十分に明らかにされてこなかったものであり、大人の視点から意図的にもたらすことができないものである。「子どもにとっての学び」を子どもの視点から概念化することによって、一人ひとり異なる「その子」にとって意味のある学びのプロセスを読み解くための理論的概念を示したことが、本研究の成果の一つである。

(2) 「子どもにとっての学び」を読み解くための視点・方法の探究

以上のような「子どもにとっての学び」において保育者はどのような役割を果たすのだろうか。この点について、本研究では「合意」概念を手がかりとした子どもと保育者の応答的なかかわりの概念化、ドイツにおける観察とドキュメンテーションをめぐる議論を手がかりとして、「子どもにとっての学び」を読み解く視点・方法の探究を行なった。

子どもと保育者の応答的なかかわりの概念化

本研究で明らかにした「子どもにとっての学び」は、あらゆる感覚や思考を使って世界との関係性を変化させていくプロセスである。そのような学びの深まりにおいて、保育者と子どもはどのようなかかわりをしているのかという点に着目した検討を行なった。具体的には、<子どもの姿 保育者による学びの理解 理解にもとづく教育的援助 子どもの反応 保育者による学びの理解・・・>が何度も繰り返されるなかで幼児の学びが深まっていくという仮説にもとづき、シェーファーによる「合意」概念を手がかりとする検討を行った。その結果、保育者は子ども自

身の見方(パースペクティブ)を解釈・推論・仮定して、子どもにかかわることが示された。そのような解釈やかかわりには言語的なものだけでなく、非言語的なものや暗示的なものも含まれている。また、子どもは一方的に「理解」あるいは「評価」される対象ではなく、保育者の解釈にもとづくかかわりを承認したり拒絶したりする存在として位置づけられる。

「子どもにとっての学び」を読み解く視点・方法の探究

の検討において、保育者は子どもの見方を言語的・非言語的なコミュニケーションをとおしで解釈・推論・仮定することで、子どもの学びを深めるかかわりを行なっていることが示された。それを踏まえて、保育者はどのようにして「子どもにとっての学び」を読み解くことができるのかという問題について、ドイツで行われている観察とドキュメンテーションに着目した検討を行なった。具体的には、シェーファーが考案した「経験しながらの観察」(Wahrnehmendes Beobachten)と呼ばれる観察とドキュメンテーションの方法論に着目し、保育者は子どもが学ぶプロセスをどのように解釈し、自らの保育実践につなげていくのかという点を明らかにすることを目指した。その結果、次の二点が明らかになった。一点目は、子どもがヒト・モノ・コトとかかわりながら世界との関係性を変化させていくときに子どもが用いる感覚や思考に着目することによって、「子どもに見えていること」にアプローチすることが可能になることである。二点目は、「子どもにとっての学び」を読み解き記述するためには、保育者自身もあらゆる感覚や思考を使って「子どもに見えていること」を解釈する必要性があることである。

また、ドイツ・ベルリンで実施した聞き取り調査を通して、ドイツの観察とドキュメンテーションにはいくつか種類があり、「子どもにとっての学び」の記述を目指すものは「プロセス志向」あるいは「リソース志向」の方法として位置づけられていることが明らかとなった。ドイツでは、「プロセス志向」「リソース志向」の方法と、子どもが持っている能力をアセスメントする方法を組み合わせる実施する保育施設が多いことが明らかとなった。

以上のことから、一人ひとりの子どもの見方(パースペクティブ)に着目して学びのプロセスを支えることによって乳幼児期の学びの質を高めるといふ、新たな保育・幼児教育の在り方を示したことが本研究の成果であるといえる。

(3) 今後の展望

本研究の成果を踏まえ、今後は「子どもにとっての学び」を読み解く支える保育者の役割を実践的に探究すること、乳幼児期の「子どもにとっての学び」は小学校以降の学びとどのようにつながっているのかについて理論的・実践的に探究することを研究課題としたい。

【引用文献】

- ・ Schäfer, G. E. (Hrsg.) (2005) *Bildung beginnt mit der Geburt.—Ein offener Bildungsplan für Kindertageseinrichtungen in Nordrhein-Westfalen*. 2. Aufl. Berlin : Cornelsen Scriptor.
- ・ Schäfer, G. E. (2011) *Was ist frühkindliche Bildung? Kindlicher Anfängergeist in einer Kultur des Lernens*. Weinheim und München: Juventa Verlag.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 中西さやか | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 「子どもの側」から乳幼児期の学びを読み解く視点とは Bildung（ビルドゥング）概念を手がかりとして | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 社会福祉学部論集 | 6. 最初と最後の頁 97-107 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 榎橋裕子・中西さやか |
| 2. 発表標題 保育者の捉える『その子らしさ』とは何か 子ども理解に基づく保育を再考する |
| 3. 学会等名 日本保育学会第73回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 中西さやか |
| 2. 発表標題 子どもの主体的な学びにおける保育者の役割 |
| 3. 学会等名 日本教育学会第79回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中西さやか |
| 2. 発表標題 幼児の「主体的な学び」をとらえる評価視点に関する検討—Bildung（ビルドゥング）概念を手がかりとして— |
| 3. 学会等名 日本教育学会第78回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中西さやか |
| 2. 発表標題 乳幼児期の学びのとらえ方について |
| 3. 学会等名 中国四国教育学会第71回大会ラウンドテーブル「幼児教育における経験の評価をとらえなおす」 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 中西さやか |
| 2. 発表標題 保育・幼児教育における学びの評価論に関する一考察 |
| 3. 学会等名 日本保育学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 中西さやか | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 春風社 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 ドイツの幼児教育におけるビルドゥング | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| 中西さやか「ドイツのビルドゥングから問い直す：子どもにとっての学びとは？」 佛教大学研究活動情報manako (https://bukkyo-u-research.jp/research/research42/) 2023年12月掲載 |
|--|

6. 研究組織

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|